

2020.9/9

第3回定期大会 合流新党への移行と地域組織づくりを決定



立憲民主党県連は9月6日、新潟市内で第3回定期大会を開き、合流新党への移行と県内における地域組織づくりをリードしていくことを正式決定しました。任期満了に伴う役員改選で、西村智奈美代表（衆院議員）、打越さく良副代表（参院議員）を再任し、新たに黒岩宇洋副代表（衆院議員）、大淵健幹事長（県議）、栗田英明幹事長代理（上越市議）、佐々木志津子政務調査会長（見附市議）を選出しました。任期は新党県連結成まで。大会で西村代表は、「立憲民主党は解党し、合流新党が結党する。県連の2年間の歴史に幕はおろすが合流新党のもと、地方組織が新潟でも発足する」と挨拶（別掲）しました。

1区・3区・4区現職と6区新人の勝利へ 2区・5区は本部方針や野党協議を踏まえて

大会では、当面の活動として早期の衆議院解散を想定し、合流新党の参加を表明している西村（1区）、黒岩（3区）、菊田真紀子（4区）の各衆院議員と梅谷守氏（6区）の勝利に向けて選挙体制を構築し、空白の2区、5区は新党本部方針や野党協議を踏まえ対応することにしました。最後に、「立憲民主党を継承する新党へ移行し、県内党組織の構築をリードする」とした大会アピールを採択しました。

大会は、新型コロナウイルス感染予防のため、規模を縮小し、総支部・地域の代議員らが出席したほか、来賓に連合新潟の牧野茂夫会長、菊田衆院議員代理の内山五郎事務総長が挨拶しました。



佐藤幹事長が退任 ～ご苦労様でした～

県連設立から幹事長を務めた佐藤伸広幹事長が今大会で退任し、西村代表は「2年にわたって困難な時期に任にあたって頂いた」と感謝の言葉を述べました。